

第21期新宿区社会教育委員の会議 第4回定例会 議事要旨

日時 平成31年3月15日（金）
場所 教育センター6階 小研修室A
出席者 笹井議長、中村副議長、山口委員、山下委員、横山委員、藤後委員
事務局 教育支援課長、事務局

1 開会のあいさつ

○事務局 それでは、本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

開会に先立ちまして、ご出欠の確認をさせていただきます。本日は、勝沼委員、東委員、鶴巻委員、大塚委員がご欠席です。

それでは、議長、よろしく申し上げます。

○議長 おはようございます。お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は、この間から幾つか論点を出していますが、特にPTAの関連などについて皆様方のご意見をお聞かせ願いたいと思い、開催をいたしました。幾つか論点があるうちの一つですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

まずは、事務局から配付資料のご説明をお願いします。

2 配布資料について

事務局より、配付資料の説明。

3 議事

○議長 それでは、議事に入りたいと思います。

今日で第4回目の定例会になりますが、前回の定例会では、3つの視点の一つである地域協働学校と町会・自治会等ということで、支援の輪を広げるために、どのように町会・自治会等と連携をとっていくべきかについて検討を行い、皆様からご意見をいただいたところでございます。

本日は、その次の視点であります、地域協働学校とPTAということにつきまして、支援の輪を広げるために、この辺をまず、どういう取り組みがあるのかということについて、検討を行っていきたいと思います。

初めに資料について事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局 最初にこちら、「テーマ」と左に書かれたものをお出しください。

今、議長より説明をいただきましたが、支援の輪を広げるための3つの視点の2番目、地域協働学校とPTAが本日のテーマです。まずこちらを読み上げさせていただきます。

PTAの組織や活動のあり方について、また、家庭教育については、多様な意見や考え方がある中で、地域協働学校とPTAの役割分担はどうあるべきか、また、より多くの保護者の方が地域協働学校にかかわるようになるためには、どのようにしていけばよいのかということが2つ目の視点です。

それを踏まえ、次の資料ですが、皆さんに事前にお配りさせていただきました、こちらの支援の輪を広げるための2つ目の視点で、事務局から3つの観点から検討することで、事前に準備させていただいたものを読み上げさせていただきます。

P T Aは、子どもの幸せを願い、保護者と教員が協力して青少年健全育成に努めることともに、会員自身の成人教育活動の場として重要な役割を担う社会教育関係団体である。子どもの教育については保護者が第一義的な責任を持つことから、P T Aはこれまで学校支援活動の主力となってきた。しかし、社会の変化に伴い、共働き世帯が増加し、平日の昼間に活動できるP T A会員に限られ、役員や委員のなり手不足につながっている。

平成29年4月に、全ての区立小中学校が地域協働学校になったことで、登下校時の子どもの見守り活動や読み聞かせなど、これまでP T A活動でやってきたことを地域の方々とともに取り組めるようになった。そこで、P T Aが行っている活動について、地域の方々をより取り込むことで、学校支援の輪を広げることができると考える。以下の3つの観点から検討する。

1、地域協働学校による防犯パトロール等のP T A活動への支援。

【現状】防犯パトロール、夏休みのラジオ体操は、保護者が交代制で担当を決めて活動を行っている。安全週間や年末年始の際には、地域の方々に防犯パトロールの協力をしてもらっている。運動会の運営補助は、P T Aの運動会部等により受け付けや巡回が行われている。

【課題】登下校時の防犯パトロールは、保護者の就労時間と時間が重なる。防犯パトロールは多くの人員が必要。夏休みのラジオ体操の実施を保護者が就労前に行うことは、負担が大きい。運動会の運営補助は、自分の子どもの様子を見る時間が限られる。

【提案】安全教育の目標を学校運営協議会等で地域とP T Aで共有できないだろうか。地域の方々と子どもと一緒に通学路を歩き、危険な場所や子ども110番の家の確認や防犯マップの共有をすることはできないだろうか。町会の防犯部等の方々に、ふだんの登下校時における防犯パトロールや運動会の運営補助などの活動で連携できないだろうか。

2、卒業生保護者の地域協働学校への支援。

【現状と課題】読み聞かせや環境支援など、一部の活動で元P T A会員の方に活動の継続を学校からお願いしているが、卒業生の保護者として活動を継続している人は少ない。卒業生の保護者に学校に協力し続けてもらう仕組みがある学校が少ない。

【提案】P T Aとしての活動を終えた後も学校に協力していただける保護者に対し、学校に残れる仕組みをつくることで支援の輪を広げることができるのではないだろうかということで、参考資料で一部カラーの四谷小のスマイルクラブの資料をつけさせていただきました。

3の地域協働学校における家庭教育支援。

【現状】教育支援課の家庭の教育力向上を目的とした事業として、家庭教育講座、家庭教育支援セミナー、単位P T A支援事業が行われている。家庭教育講座では、小学校及び中学校でP T Aが自主的に講座を企画・運営している。家庭教育支援セミナーで、平成30年度は、「思春期」、「性教育」、「情報モラル教育」をテーマに教育委員会主催で開催した。単位P T A支援事業では、ある小学校で家庭教育に関する授業が実施をされたが、実施は1校のみで、実際の実施の様子が書かれた用紙が別紙2で、「早寝早起き朝ごはん 早朝ランニング」という企画が実施されました。

続いてですが、ある中学校では、地域協働学校で家庭教育に関する講演会等を開催している。ということで、別紙3についてですが、地域協働学校だよりということで、今年度の12月に子育て支援のための講演会で、「思春期の子ども」ということをテーマに開催した資料をつけさせていただきました。

【課題】少子化や核家族化、都市化、情報化等の経済社会の変化や人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化などにより、地域社会や家庭における教育力が低下しているとされている。家庭教育について関心が低い保護者への情報提供を課題と挙げさせていただきました。

【提案】地域協働学校が家庭教育に積極的にかかわることはできないだろうか。家庭教育に関心の低い保護者に対し、地域、PTA、学校で連携し、家庭教育や子育てに関する情報を発信できないだろうか。地域協働学校に講師謝礼が配当されているため、地域協働学校とPTAで連携して講座を開催し、講師選定や運営について地域の方々に支援していただくことはできないだろうか。

以上、本日準備させていただきました資料を説明させていただきました。

○教育支援課長 私から補足説明します。

今回、3つの観点ということを出させていただきました。その根底にあるものの一番大きな捉え方としての問題意識としては、これまで学校をめぐる地域のさまざまな活動を支えてきたPTAの活動が、新宿区の場合は、いわゆる従来型の専業主婦という形の人が少ないようになっており、何らかの仕事は必ず持っているという方が多い中、活動が成り立たなくなってきているということと、あと、そもそものあり方としての、従来のどちらかという全員必ず会員である、全員が必ず何かをするというような考え方については、反発を持つ方も多くなって、その背景は、やはり実際にできなくなってきているということが起点となって、そういうことが、また、そういう何がおかしいんだと言って、そこが問題じゃないかという捉え方をしている方が多くなってきている。仕組みとかそういう部分についても、非常に不満のある方が増えてきていると。そういう部分があります。

ただ、これまでPTAが担ってきた役割というのは、地域にとって非常に重要な活動であったわけで、そのような活動がなくなってしまうということが、簡単に想像ができる事態に今なっていており、そんな中で、新宿区の場合は地域協働学校という、全校に広がった仕組みがあるので、大きな目的は共通するものですから、そのような役割分担の見直しができるのではないかと。そういう部分です。

あと、もう一つ、こちらは行政的な視点になりますが、これまで家庭教育、つまり、親が子どもをどう育てていくかという部分についてのさまざまなアドバイスについて、ここも恐らく従来はファミリーがあったり、大家族であったり、地域の方がそういったこともアドバイスするから、親だけの力じゃなく、そういうこともできたし、親もそういった学ぶ場がたくさんあった。おじいちゃん・おばあちゃんから学んだり、近所のちょっとうるさい人からいろんなことを学んだりしながら、自分としても子育てについて成長する場があったが、そういうことがプツンと切れてしまっている中では、自分一人で子育てする中で悩みを抱えている。そこにどうサポートするか、そういう部分で、PTAを通じて教育委員会でこれまで、PTAでそういった家庭教育の講座を設けるみたいなことの支援を実施してきたが、そういった支援のもう一つの間として、地域協働学校の活動なり、地域の中でそういった保護者教育をする場を意図的につくっていかないと、保護者が孤立している状態になっているんじゃないかと。そういう部分では、地域協働学校の活動の幅を広げるものとして、こういった家庭教育についても取り組むということがありなんではないかと。

そういった問題意識からの提案でございます。

○議長 ありがとうございます。

P T Aについて幾つか論点出させていただきました。1番目は、地域協働学校による防犯パトロール等のP T A活動への支援ということで、P T Aに地域協働学校の色々な活動を支援してもらおうじゃないかという観点ですが、防犯パトロールについて、非常に身近なテーマではありますが、どんな形が考えられて、どういう課題があるのか等々、ここに一応整理していただいておりますが、皆さんから率直なお考えを伺いたいと思います。

○事務局 本日欠席した委員から事前にご意見いただいたので、読み上げさせていただきます。

○事務局 1の防犯パトロールに関してですが、基本的に自分の子どもは自分で守ることが前提だとしても、就労している保護者が増えている現状では、地域の方の協力は不可欠だと思います。その一方、残念なことに、保護者から知らない人に挨拶をしてはいけないと指導されている児童も少なくありません。

ある小学校の例ですが、夜回りはP T Aからお願いをして、地域の方と年末に行っていますが、地域の方からは、P T Aと一緒にやることをよしと思っていない方もいると聞いております。この小学校では、一家庭1部配布していた学校入館証を兼ねたプレートを来年度からは2部ずつ配布し、学校に来るとき以外も保護者につけていただき、児童がプレートを下げている大人には安心して挨拶ができるようにしていきます。また、逆も同じで、どの児童にも声かけができるようにしていけるようにとの思いがあります。地域の方にも何かマークになるようなものを配布できたという案が上がったのですが、管理の問題や、安心・安全な人をどのように見分けるかなどの問題があり、実現していません。

地域の方が児童に声かけした際に、知らない人から声をかけられたと不審者案件となってしまう事例もあるそうで、地域の方もよく知っている児童以外には声かけしにくいという声も聞いております。この小学校では来年度よりイベントは基本、親子参加、今までもスクール・コーディネーターさん等の顔写真は校内に掲示してあったのですが、それ以外の地域の方の顔写真も掲示いたします。地道な活動ですが、お互い顔見知りになるのが一番という結論です。

警察のデータに、誘拐や連れ込みしようとしたときに、児童をつけて、児童が帰宅するまでに3人の地域の人と挨拶を交わしたら、あきらめるというのがあるそうです。

今のが防犯パトロールについてです。

それから、運動会についてもちょっとご意見いただきました。

運動会ですが、学校によって運営補助の範囲が違うので、一概には言えませんが、P T Aは受付、来賓対応、パトロールが主な仕事です。自分の子どもの学年の競技の際には、他学年の保護者に頼んで交代するので、少なくとも競技は観覧することができます。ふだんP T A活動に参加できないご家庭でも運動会にはほぼ参加するので、協力すべきときだとも思います。

また、ピーポ110ばんのいえの確認がおざなりになっていたもので、本年度はP T Aで一軒一軒回って確認し、写真つきで安全・安心マップを作成しました。各クラスに掲示し、児童がふだんから目にする環境にしたかったのですが、教室に掲示場所がないということで、学校と協議中です。

他の地域では、地域とよい環境をつくれるところもあると聞いております。本事例の小学校は3つの地域に学区がまたがっていることもあり、自分たちの地域の学校だという認識が低い

そうです。安心・安全に関しても、それは保護者の仕事だろうと言われてしまうことも、少なくないように思います。お互いがお互いさまだと思えるような関係性をつくれればよいのですが、学校と地域という規模で考えると、難しく感じます。例えば、児童の見守りをしてくださることで、地域の方が高齢になったときに恩返しできるというような形ができればと思います。

ということでご意見をいただきました。

○議長 ありがとうございます。

非常に本質的な意見、つまり、いろんな地域の人たちと子どもたち、親、保護者と顔がつかなくて、よい人間関係が広がっていくという、防犯パトロールや運動会を通じて、そういうことが大事でしょうというご意見で、本当そのとおりだなと思って話を聞いていました。

どうでしょうか、防犯パトロール等のPTA活動で支援という点について、ほかの皆さん、どういうふうにお考えでしょうか。どなたからでも結構です。

具体的には、これは事務局のほうからの提案として、安全教育の目標を学校運営協議会とPTAで共有できないだろうかとか、危険な場所や子ども110番の家の確認に防犯マップの共有することができたらどうかとか、幾つかもう少し具体的な点について提案が出ていますが、そのことについてでも構いませんので、ぜひご意見いただきたいと思います。

○委員 昨日、防犯マップを2時間かけてチェックをしてきたばかりです。

保護者の方がチェックをしようとする、自分の知っている範囲があまりに少ないので、わからないところに地元の方が「ここに店あるから。知り合いだからつくってあげようか」「ここは今度声かけてきます」など、地元ならではのコネクションを使って広げてくれるところがすごく助かりました。あと、「ここは閉まっているよ」「ここは、実はここが入口で、ここに行かないとだめ」とかいう、地元で古くからいる人ならではの意見が、保護者としては安心な材料になりました。とても助かりました。

○議長 ということは、防犯マップをつくるときに、PTAの人と地域の人が協力してつくった。

○委員 そうですね。PTAがお願いするのは可能ですけど、どこに行っていかわからないので、やはり地元の、いわゆる上の世代の人が、ここはこうですよと言ってくると、話も通りやすいです。よく地図を見て、「この辺、なんか寂しいわね」と言うと、「この店、やっているかもしれない」と言って話を広げていくのは、すごく助かります。これはPTAだけではなかなか難しいです。

○議長 なるほど、わかりました。

○委員 私の地域では、毎年、育成会とPTAで協力して、防犯マップを作っています。全員に配って、地区内にある3つの小学校の他の地域にも配っていますが、そちらのピーポ110ばんのおうちとか、これは危険とか、そういうものを全部作り、育成会がお金も出し、PTAはそれぞれの現場に回って確認するという、足を使っただけのお仕事を担当しています。それは、毎年、スムーズにできています。

学校では、保護者方がタスキをかけて、防犯パトロールを通年やっていました。そうすると、防犯パトロールも、巡回しているのは昼間とか、2人で回る場合、保護者同士の都合のいいときに回っています。それでも、この地域は回っているということを示すにはいいのではないかとの話はあって、ずっと続けていたのですが、やはりここへ来てできないという話になりま

した。それを、地域協働学校を通じて地域へ持っていかるといって、PTAができないのにどうしてとなってしまう。協力して欲しいという話はわかりますが、事業ができないからといって、地域の協働学校のときにと言われても、正直、面食らいます。

運動会の手伝いもそうです。PTAではできないので、手伝いのボランティアはその都度学校が集めます。PTAが来年度のボランティアといったら何人かは手伝いをしてくれたのですが、そういったことが校内だけじゃなくて周りに知れ、地域と間がぎくしゃくしていくわけです。

だから、同じようにやるのは大変なので、規模を縮小し、PTAもやった上で協力をお願いできればうまくいくとは思いますが、なかなか難しいと思います。学校へ行っていけば、現状、保護者の動きも多少はわかるとは思いますが、地域に行けば、地域の意見もまさしく納得するようなご意見なので、バランスが難しいと思います。

○議長 今の話では、防犯パトロールはもうやってないということですか。

○委員 来年からやらないですね。

○委員 皆さん仕事しているし、結局ボランティアって70歳前後になっちゃいますよね。

○委員 学校にいる受付だって、みんな80歳までできるシルバーさんでしょう。学校内に行ってもそうだし。結局、仕事もしてなくて時間があるっていうと、70歳前後の方です。その話をしたら、みんな何曜日は何がある、何曜日は何がある、自分も医者に行くとかって言って。1つのことをやるなら、3人いないと結局できないとか、この1時間を見るのに、1人で見るということは厳しいので3人必要だとか。結果、無理と言われてしまうのです。本当にそのバランスが難しいなと思いますよね。

○委員 結局、話をよく聞くと、自由な時間をとられるから嫌がっている。だから、パトロールするのはよくても、自分の時間を侵食されるから嫌がる。土曜・日曜にやるにしても、せっかく休みで家族と一緒にいるのに、何で自分を犠牲にしてまで地域のことをやらなきゃいけないのだということが、二言目には出てきたりします。

「いや、地域のためだからいいでしょう」という気持ちを持っている人は、どんどん少なくなってきた感じがします。昨日、育成会に来ていた保護者の方は、子どもたちのために行っているのに、何で皆さんが嫌がるのかわからないと言っていました。でもそういった人はごく一部で、あとは休みの日は家族と一緒にレジャー等を優先する保護者が、多いと感じています。

○委員 前に聞いたことがあるのは、PTAは同じような年代の人同士なので意見が通りやすいのですが、育成会とか地域になると構成年齢層が高くなります。そうすると、40代の人何か意見言っても通りません。そのようなことから、地域等に関わるのは嫌と考える方もいます。

○委員 PTAの意識改革のようなものが必要でしょうね。

○委員 世代差があったとき、昔はおじいちゃん・おばあちゃんと住んでいたから、コミュニケーションを取るとき、1度話を受けて、「そうですよね。でも」という言い方するといいいのですが、「いや、それは」と拒絶してしまうなど、コミュニケーションの仕方そのものを知らない人がふえている感じがします。

○副議長 よろしいですか。

私の住んでいる地区の防犯マップは、以前、お金が潤沢に使えるときは地区協がつくっており、対象地域が全域だったこともあって記載内容が小さくなり、子どもたちに見にくくなっていました。それを解消するため、学校単位で、学校のエリアにプラスして少し膨らませたエリ

アでつくって、子どもたちに分けていました。ですので、それを少し再販してお配りすることはできるかもしれませんが、今、地区協が自己資金を持たないとなかなか運営ができない状態になってきていますので、何をやるかというところがなかなか難しくなっている部分があります。ですので、そのあたりをお金のかからない地域のパトロールなどに落とし込んでいてもいいのかなと思っています。それから、学校の地域安全マップづくりは、4年生の授業などにありますが、それを地域協働学校で地域の人たちと一緒に回りながら、子どもたちと点検してつくっています。

この地区では、昨年から「声かけ隊」という、これは社協の事業、会議から始まり、超高齢社会を見た据えたこれからの活動ということで始まりました。それは高齢者に限らず、子どもにも声かけをしていきたいと思います。そういう中で、見える形のものとして、バッチをつけてやりましょうということになりました。これらを利用して、子どもたちになるべく声を掛けたり、目を配ってくださいということをしていくのも、一つかもしれません。

新宿区には防犯に関する重点地区として、各町会で登録を行うことができるということがあります。そういうところにお話をかけるといいのかなというふうに思います。地域協働学校だけでなく、地域協働学校がお話をかけて、皆さんに協力していただく形にすればいいかもしれません。体力的には70歳、80歳で守ることはできなくても、地域の目があるんだ、この地域はそうした人たちが大勢いるんだということで、一つの抑止になるのかなと思っています。ですから、高齢者であっても、持てる力でやっていただくということは、それは大いにいいかもしれないと思います。

○議長 その地区の場合は、PTAの活動は活発ですか。

○副議長 一生懸命やっているといます。それで、地域協働学校でも、なるべくPTAの負担を少なくするために地域協働学校が生まれたような、そんなお話もチラッと伺ったこともあります。私はある小学校の地域協働学校の代表をしています。お子さんのことだから、なるべく負担は少なくしても出られる方は出ていただくというように、緩やかな参加の形をとっています。そうすると、PTAの役員の方が地域協働学校の中におり、事務局も務めていますので、例えば、学校で授業をやるときに、30人の協力を得たいなんていうお話があるときに、地域でお声かけても、20人とか25人ぐらいまでは大丈夫だけど、あと5人足りないというようなときには、手紙などで発信しているようです。都合がつく方は保護者の中でお出になってくださいとか、特に授業を実施する学年を中心に声かけすると、結構出てくれるようです。

結構そのような形でやっていますし、隣の地区の小学校も協力的に地域の方ともかかわっており、PTAもPTA活動、どのくらいまでというのは、私も最近、あまり情報を得ていないのですが、比較的活動しているほうではないかなと思っています。やはり、ライフスタイルが変わってきている中で、昔の私たちがやっているPTA活動というのは、なかなか無理なのかなと思っています。

ですが、先ほどおっしゃったように、全然自分たちがやれないから、全部、地域の育成会に丸投げという形ではなく、自分たちも何とかして頑張るけれども、お願いしますという、というような気持ちは必要かもしれません。やっぱり自分たちの子どもを守るためですから、自分たちは例えば1人しか出られない、あと地域の方、20人お願いしますという形でも、私は十分だと思います。誰も出ないで、地域の方お願いしますという形ではなく、だから、やはり

そこに出られる時間とか、あるいは曜日とか、無理やりにあの人をという形ではなく、皆さんにお話をし、出られる方が参加するというような、そういったPTAの仕組みというか、やり方というか、そういったものも少し考えていくのも必要なのかなと、そんなことを感じます。

なるべく地域は、子どもたちのためだから協力しましょうというのは、地域の気持ちだと思います。それで出ていくと、とっても楽しかったとか、あっ、こういうことを学校でもやっているんだということが分かり、また次につながっていくので、地域協働学校のお声をかけると、「去年も出させていただきましたけど、今年も行くわ」と言ってくれる方も増えてきました。

○教育支援課長 こういった形で、これが地域活動の一番コアとなる、中心の活動ですよ。だから、ここは中心として広げていける部分だと思います。

○副議長 それで、こういう中では、呼びかければ、パトロールとか、そんなのもできると思います。朝遊びも声かけしましょうとって今やっています。そのほか、声かけ隊とか、そういったものにも少し波及していくといいのかなと思っていますけれど、地域の中では。

○議長 ありがとうございます。

どうぞ、ほかの皆さん。

○委員 私、子どもが新宿区内の小学校を卒業して3年経っているので、ちょっと様子がまた変わっているかもしれませんが、在学中の防犯パトロールは、たしか春と秋の交通安全の期間に保護者がやるというもの以外は、放課後のパトロールは育成会の方がやってくださっていたという記憶があります。防犯パトロールとかベルマークの点数数えるのとかは、お仕事を持っている方とか、外国人国籍の保護者とか、そういう感じの方が優先で担える仕事みたいな感じで用意されていて、なくなっているということはないと思います。

他に、地域の方、育成会のパトロールの方のお写真と名前を、春に出す校内のPTAが出している広報紙に載せて、ちょっと生徒と顔つなぎするというような活動もしたりしていたので、やはりそういう地域とか保護者が学校と一緒にやっていると、もう少しどこかそういう紙面でもアピールできる場所があったら、もうちょっと円滑に回るのかなとか、ちょっと思いました。

○議長 ありがとうございます。

○委員 PTAと地域で協働ということは、ぜひ進めていただければと思っています。ただ、その際に二者対立になってしまう構造ではなく、両者を誰かがつないでいくことが必要ではないかと思っています。なぜ子どもの育ちにおいて地域が必要なのかということ、誰かが別の立場できちんと情報発信をすることで、二者対立ではない形で、両者ともに子どもの育つ意味を、共通認識として理解できるのではないかなと思っています。

たまたまこの2週間、フィンランドとドイツの視察に行ってきました。その際勉強になったことが情報発信の仕方なのです。保護者に対してもきちんと情報発信して、保護者を巻き込んでいっていました。なぜこのことが必要なのかということ、明確化して発信していました。ですので、子どもにとっての地域の意味、地域にとっても子どもとかかわることの意味というようなことを誰かが発信、学識の方でもいいと思いますが、発信するというのも必要なのではないのでしょうか。それが1点目です。

もう一つ、では実際にPTAと地域とで動きをする際に、やはり予防的な観点が重要です。

限られた人員数なので、体力的には防犯を全て担うのは難しいかもしれませんが、さっき副議長がおっしゃったように、地域の目があるよという雰囲気をつくっていくということもすごく大切なことだと思います。その一例として、例えば他の区ですと、今、防犯のパトロールをしているのかどうか、ちょっと把握はしていませんが、ただ、少なくとも子どもの帰る時間、午後2時から4時に犯罪が多いので、その際、放送がかかります。同時に啓発活動として、ともかく家の外に出てください皆さんと呼び掛けています。お掃除でも構わないので出て、パトロールではなく、できる範囲で、家の外へ出てちょっとおしゃべりとかでも全然構わないと思います。できる範囲で何かかかわっていくということを提案していくとよいと思います。

最後に、やはりかかわりながら、楽しかったとか、この方たちと出会えてよかったというような、人と出会う楽しさを共有できる仕組みができればなと思います。

○副議長 新宿区でも子どもの帰る時間のアナウンスがあって、地域の皆さん、今から子どもたちが帰りますので、見守りをお願いしますというのをやっていますね。

○教育支援課長 防災無線でやっています。

○副議長 そうすると、やはり出てきてくれて、「お帰りなさい」とか、「気をつけてね」と言ってくれる方もいます。

それで、地域の方では毎日3名、雨が降っても、3人が通学路に出て、朝、「行ってらっしゃい」と声をかけてくださる方がいます。だから、それもすばらしいなと思って、私、「どのくらいやったださいますか」と言ったら、もう10年くらいやっていますというような方がいて、何とかそれを町連か何かで表彰したいなというふうに思っています。

○委員 ちょっと1点疑問ですが、集団登校というのはなくなりましたが。なぜかという、集団登校で来てくれると、声もかけやすいし、子どもたちの中で「あの人誰」みたいな話ができるので。

○委員 結局、集団登校をやっていると、何が起こっていたかという、誰ちゃん来てないねってなると、迎えに行ったりとか。そうすると、ここは誰々ちゃんの家というのがわかるのでみんな、ああこうだねとか、地域の仲間って、子どもたち同士で、俺は何々町みたいな、結果がすごく高まっていた感がありますが、今、うちの子どもの世界だったら、自分が何々町にいるかも把握してないですね。

○委員 挨拶一つにしても難しいです。校帽をかぶっていればいいのですが、私服というか、帽子を脱いで放課後になってしまうとわかりませんので、向こうがこの人どこかで見たことあるなという顔をしたら、帰りとか、「どこ行くの、これから、塾？」とかって声をかけることはできますが、外の挨拶っていうのは本当に難しいと思います。

○副議長 そういうことがあるから、私の地区では声かけ隊のバッチをして、そういうような形で、この人だったら大丈夫かなというようなことでわかってもらえるように、見える形をとりましようとなりました。

○委員 そもそも論でいくと、地域協働学校って範囲が広過ぎるのではないかという気がします。もう少し範囲を狭くしたほうがいいのではないかと思います。例えば、さっきの町会の子もたちって、わかるじゃないですか。そこがすごく希薄になっているのに、さあ300人、400人の子どもを全部見て覚えろっていうのは、やはり難しい気がします。

○教育支援課長 そうですね。だから、今回もテーマとさせていただいた、今、PTAの仕事と

してやっているものです。PTAの幅も広がり過ぎて、町会と一体的になっちゃっているところもありますが、本当にPTAがやらなきゃいけない部分というものの何か役割分担で、地域協働学校が受け手とはなり得る、地域協働学校で、あるいは、ひょっとしたら地域協働学校の、四谷小のスマイルクラブの取り組みに近いですが、結局、PTAと同じような活動ができる組織を地域協働学校でぶら下げればいいみたいなイメージがありますよね。そのあたり、スマイルクラブがどんな感じになるのかとかいうところですが。

○委員 我々も、地域という言葉は外しています。例えば、今まで「地域何とかスポーツ」を、「みんなのスポーツ」と。やはり地域っていうのは、自分は地域じゃないっていう人がいるので、みんなの文化とか、みんなの講演会とか、みんなのスポーツっていう、委員名も変えて、みんスポとかってやるように変えないと、対地域とか、そこに関係ありませんって、そこでシャットアウトしている方が保護者の中に多いなというのは感じます。

○委員 保護者教育がまず必要だということですかね。

○委員 今の話、すごく勉強になりますし、興味深いのですが、どうしても大人の視点というか、子どもの参画が少ない気がしました。フィンランドで例えると、子ども自身が考えていくプロセスが大切にされている気がします。自分たちにとってなぜ安全が必要なのかと。「安全は自分たちだけで守れないよね、じゃ、お母さん・お父さんの力も必要だよ」とか、「地域の力も必要だよ」と言うように考えさせて、必要であれば言って、子どもから発信していくのはどうでしょうか。もし、親の立場であったり地域の立場であっても、子どもから発信されたいされると、多分喜んでというか、受けるのではないかなと思いました。これは理想論になりますが、子ども自身と一緒に考えてもらって、子どもを主体としながら動くという方法も、アイデアとして挙げられればなと思っています。

○委員 私の地区は、後ろは全部白地図にしました。マップの表裏で、表はちゃんと広域を書いて、裏は自分の校区を書いて、そこで保護者と一緒に書き込んでマークがつけられるように白地図でやりました。今年から配布します。

○議長 ありがとうございます。

次の論点に移りたいと思います。すみません、裏になります。卒業生保護者の地域協働学校への支援ということで。

現状と課題。読み聞かせや環境支援など、一部の活動で元PTA会員の方に活動の継続を学校からお願いしているが、卒業生の保護者として活動を継続している人は少ない。卒業生の保護者に学校に協力し続けてもらう仕組みがある学校が少ない。という現状があつて、提案としては、PTAとしての活動を終えた後も学校に協力していただける保護者に対し、学校に残れる仕組みをつくることで支援の輪を広げることができるのではないかと提案を考えました。この点についてはいかがでしょうか。

○事務局 欠席委員からのご意見です。

私の地区にある小学校では、卒業生の保護者で活動してくれる方はいないように思います。また、卒業生の保護者が協力できるような仕組みもありません。卒業すると、中学・高校のPTAが忙しくなるという話も聞くので、難しいかもしれませんが、協力できる仕組みをつくって、発信し続けることは大切なことだと思いました。小中合同の地域協働学校が定着していけば、状況も変わるのではないのでしょうか、ということでご意見いただきました。

○議長 ありがとうございます。

これは皆さんどうお思いになったでしょうか。

○委員 私は卒業生で、図書ボランティアをやっていた関係で、地域の図書ボランティアとして残っています。その中で今手伝えていることというのは、ワクワクの読み聞かせのお手伝いをやっています。残る人の割合はやはり少なく、自分の子どもがいるときはボランティアはやるけれども、卒業すると、多くて3人ぐらいな感じの現状で、それで3年経って、年々、活動は減ってきています。

最初のころはまだ顔もつながっていたので、ほかの学年で人が足りないからと呼んでもらえましたが、だんだんと新しい人が入ってきて顔もあんまり合わせなくなると、頼まれることもなくなって、離れてきているのかなという印象があります。

○委員 うちも同じぐらいですね。やはり最初は図書ボランティアで読み聞かせで、保護者がメインですが、保護者がやれるようになると、だんだんお払い箱になる。1度お断りすると、今度は頼みづらくなって、そのままフェードアウトするケースが多いような気がします。

どうしても、四谷小ではスマイルクラブをやって、会員になっていただいて、会員の人は平等にという。この会員証を渡して校内に入れるようにはしています。

○教育支援課長 そのスマイルクラブとPTAの関係性、位置づけとか、わかりづらいところがある。それと、もう一つ、従来、この機能って育成会で果たしてきていたが、育成会との関係はどうなっているのか。

○委員 今年、ガラッと変えました。どういうふうに変えたかということ、まず子どもたちのために何かできることはないですか、子どもたちにやってあげたいことはないですかといった内容を、インターネットを活用して情報を収集し、スマイルクラブと共有しました。それをリスト化することで、PTAが主体で企画を立てたりするときは、この人をお願いしようといったことができるようにしたいと思い、今リスト集めをしています。スマイルクラブとPTAとは、同じ人材バンクじゃないですけど、このスマイルクラブのような形になって、PTAの人がそのまま卒業しても、そのリストはこのまま残り続けるような形にしたいと考えています。

○委員 ただ、主体は学校をサポートすることであって、スマイルクラブが主体となって事業等を企画することは基本的にはやらないです。やはり学校がメイン。誰が仕切るかということ、学校でしょうと。校長先生が音頭をとって、その方針に従って動きます。ここは徹底してやりますよというのが、今の方針ですね。

○委員 そうすると、スマイルクラブと地域協働学校は同義なのですか。

○委員 似ているけど、違います。今までのPTAの活動を回せるところで、学校からいろんな現場支援とかは、まず保護者でやるのもあるけれども、そこで回らなかつたら、スマイルクラブのほうに流れてくるという流れが一つ。あと、図書ボランティアとかは、もうPTAのほうに持たず、スマイルクラブの中に図書部会があって、そこがメインでやっているという、今すみ分けができていますね。

○教育支援課長 地域協働学校の運営協議会というのは実働部隊ではなくて、さまざまな調整や、話し合う場であって、そこを起点に、例えば困り事とかいろんなことが発信されて、我々のスクール・コーディネーターの方が個人という、個別に人をお願いしたりすることもあれば、ただ、これはスクール・コーディネーターも、地域協働学校と連動している学校はそうなんです

けれど、中には全然切れている学校もあるのでそこはさまざまです。連動しつつ、そういう役割を果たして、担ったり、あと、四谷小の場合は、その実働での活動は個々に振って、実際は学校でのニーズに応じて人を集めたり組織しまして、手伝うと。ただ、現状を見るとさまざままで、コーディネーターしかやってないところもまだあるし、中には、コーディネーターが活動をほとんどできてなくて、地域協働学校のほうでやっているところもあれば、どっちもできてないところもあれば、さまざまなので、画一的に仕組みか何かができないんですよね。

○副議長 でも、もともと教育委員会でこの地域協働学校というものを立ち上げたときの考えというのは、やはりスクール・コーディネーターをなくすということではないが、そういったものも含めて、地域協働学校の中でできるような形で、多くの方にかかわっていただいてというような、そういうものだった。

準備校から5年です。その中でも、学校のほうから、こういうものが必要だっていうものが、だんだんきちっと決まってきたので、年度初めにはこういうものを何月にお願ひしますというのが出てきますので、コーディネーターさんが、じゃあ何を探さなきゃなんないというのが、少なくなってきたような気がしますね。

○教育支援課長 コーディネーターはやはり機動力があります。1人で回っているところがある。運営協議会だと、会議体の中で進めるようなイメージになってしまう。

○委員 以前、ある小学校で、地域の方に、私はこういうことができますというのでリストをつくりました。私の小学校でも前につくりましたが、それが何となく立ち消えになってしまったのです。その小学校の話では、結局、じゃあ手伝うよと、何ができるよと言って、モチベーションが上がりますが、頼む仕事がないと今度はモチベーションが下がってしまうのです。そこをうまく、いつでもすぐ来てもらえるようにというのが、コーディネーターがすごく配慮していたといった話を本人から聞きました。

○副議長 卒業生の保護者に、ぜひこれは仕組みづくり、何とかしていただいて、例えば、100人卒業する中の2人でも3人でもいいと思います、そういう方が残ってやってくれるという方がいれば、そういった形でぜひ。昨日、「これでPTA卒業です」といった方が「でも、子どもがお世話になったし、何かあったらお声かけてください」といって、そんなお話をしていましたので、「じゃあ、ぜひお願いします」というと、こちらもそういった言葉を返していました。ぜひそういったものの仕組みづくりというか、しておいたほうが、これからはいいと思います。

○委員 こういうものが何かあって、卒業生の親御さんに、卒業されても来年度こういうお手伝いがありますよって、わかりやすいものがあれば、これなら私できるかもって言ってもらえるかもしれません。

○教育支援課長 スマイルクラブも結局、どんな活動のお手伝いが欲しいかって、見える化していますよね。学習、環境とかプラスバンドとかね。それはわかりやすくしている。

○委員 一生懸命、皆さんやっていました。だから、来年に向けてのボランティアの募集を全部、今かけているので、どういう形で出てくるかが、期待と不安と両方あります。

あと、それは内々で話が出ましたが、ある小学校は、PTAの先輩がいるわけですね。そうすると、その人が、「そういうものじゃないだろう。こうだろう」って言ってくれれば、割に上手くまとまったりします。だから、それはいいか悪いかっていうと、何とも言えませんが、

P T A会長の、この縦のつながりというのが、すごく大事ではないかと思えますね。

P T A会長での色々な情報はありますが、隣の学校でも、うちではできないことがいっぱいあるわけです。お互い、全然違うから、昔からのこういう会長が話を聞いていて、「いや、そういうものじゃない、ああだよ」とか、「地域ってね」って話をしてくれるというか、そういう人がいるといいなと思えますけれど。

○議長 ちょっと時間の関係もあるので、次にいきたいと思えます。

地域協働学校における家庭教育支援です。

現状。教育支援課の家庭の教育力向上を目的とした事業として、家庭教育講座、家庭教育支援セミナー、単位P T A支援事業が行われている。家庭教育講座では、小学校及び中学校でP T Aが自主的に講座を企画・運営している。家庭教育支援セミナーで、平成30年度は、「思春期」、「性教育」、「情報モラル教育」をテーマに教育委員会主催で開催した。単位P T A支援事業では、ある小学校で家庭教育に関する授業が実施されたが、実施は1校のみ。ある中学校では、地域協働学校で家庭教育に関する講演会等を開催しているという現状にあります。

課題としては、少子化や核家族化、都市化、情報化等の経済社会の変化や人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化などにより、地域社会や家庭における教育力が低下しているとされていると。次の課題。家庭教育について関心が低い保護者への情報提供をどうするかということ。

提案として考えられているのが、地域協働学校が家庭教育に積極的にかかわることはできないだろうか。家庭教育に関心の低い保護者に対し、地域、P T A、学校で連携し、家庭教育や子育てに関する情報を発信できないだろうか。そして、地域協働学校に講師謝礼が配当されているため、地域協働学校とP T Aで連携して講座を開催し、講師選定や運営について地域の方々に支援していただくことはできないだろうか。このような提案がされております。

要するに、地域協働学校で家庭教育支援というのを展開していく上で、どういう方向が考えられるのかということをちょっと議論していただきたいと思えます。どうでしょう、いかがでしょうか。

○事務局 欠席委員からの意見です。

地域協働学校とP T Aで連携しての講座の開催は、非常にいいと思う。講師を地域の方にお願ひする、また、講座内容を保護者以外も関心のある内容にし、一緒に楽しめたり勉強することができれば、ということでご意見いただきました。

○議長 ありがとうございます。

○委員 私の地域の小学校では、以前、保護者の方で料理研究家の方がいて、地震のときの防災食というのを我々がお願いをして、じゃあコーディネートしますって、つくってくださった。まな板が一番汚れる、水がないと一番危険なので、はさみだけでどう調理するかとか、ビニール袋に入れて米をどうやるとげばいいか、フリーズドライをどう使えばいいのかというのをやって、空中調理とか言って、言葉使って上手く説明してくれたのです。結構、何校かその後、同じようにやってくださったと思えます。

10月には小学校の防災関連で、今までの防災訓練は地域でやっていましたが、小学校で実施するにあたり、日曜日に防災訓練をやりますと。学校登校日にも防災訓練と一緒にやって、5年生は防災訓練と一緒にみんなで行い、6年生は保護者と一緒に防災食をつくって、食べてみ

ると。できれば、給食も防災食にしたいね、というように発展していき、やはり地域でやるべきことだし、情報発信というのは、別に地域じゃなくてもいいかなと。こういう実務の部分というのは、すごく意味合いがあるんじゃないかなと思っています。

○議長 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

○副議長 この家庭教育の中で、地域の方も含めて、人とかかわりとか何とか、そういったものにつなげられるのかなって、さっきの話を少し、PTA、PTA会長さんとか、そういうものをこういうふうにしてやっていくとどうでしょうかというのに、何かの折につなげられるような、そういったものが出てくるのではないのかなというような。

なかなか学校とかPTAがやると、難しくなってしまう。でも、地域の人がかかわることによって、そういったものにも踏み込めるといようなものが出てくるのではと思います。子育てのセミナーであっても、何となくそれに絡めて、子育てをするにはこういうものが必要だよって、いろいろな人とかかわりが必要だよっていうような形に持っていくとか、そういうようなものができるような気がします。

○委員 小学校に3部4委員会というのがありますが、やはり初めて小学生の保護者になると、その委員会はどう動いて、どういったものなのかって、まずPTAというものがわからないというのから始まって、そこに地域協働学校とかいろんなものが入ってくると、本当に1年生の保護者の方は混乱されると思うので、その過程、こういうセミナーで最初に、わかりやすくはないのですが、かかわりを持ちながら、そういった方も呼び出して、何かちょっとふんわりとやると、溶け込みやすいのかなとか思いました。そこで拒絶反応が起こってしまっているところも、なきにしもあらずですが。

○委員 PTAも一生懸命、人が来るようなことを考えていると思います。以前は、3校合同で実施していたものを、単位PTAにしたわけです。そうしたら来ない。本当に関心が低いのだと思います。話を聞けば、それこそ会場を出るときに、もう半分以上忘れてしまうかもしれないけど、何か1つ残っていればいいのではないかなと思って、何でも参加してもらえればいいと思いますが、仕事がある、何があるっていうと、その家その家のご事情にもよりますので、家庭教育のときにはなかなか来ませんよね。

○委員 テーマによって、来るときは来ますが、来ないときは全然来ない。

○委員 これも前は、お料理教室でもいいみたいなところがあったけど、それじゃだめと。

○教育支援課長 家庭教育ってさまざまな考え方があるので、行政もそうですけど、そういうことを全部指示しようと思う思いの方たちもいますが、さまざまな考え方に触れる場の提供だと思います。いろんな考え方に触れて、自分の考えを変え、変遷していくものだと。初めての子どもと2人目の子ども、全然違ってくるし、変遷していくべきものだと思います。だから、行政としても、そういった場をたくさん提供していくべきだと思います。

○副議長 お料理教室でもいいと思います。お料理教室の中には食育や、食の大切さとか、あるいは食の安全性とか感謝、動植物の命をいただいて自分たちの命にしているのだという、そういうような感謝も含めたりすることができます。それから、一家の内で親と子だけじゃなくて、おじいちゃん・おばあちゃんがいるときは、子どもの好きなものばかりをいつもの食卓に出すのではなくて、おじいちゃん・おばあちゃんの好きなものもたまには交代で出すとか、そういったものも含めてお話ができるような講師をお願いすれば、これは立派な家庭教育にもつなが

ると思いますし、地域力にもつながり、子どもの社会性にもつながる、心の教育にもつながる。そう考えていくと、例えば音楽をとっても、音楽を聞くとか歌を歌って聞くとかっていうだけではなくて、その中にそういったものを含めていただくと、来た方も、音楽も聞けたけれど、少しそういうようなエッセンスが入って、いいことを聞いたなど。そういう、ああしなさい、こうしなさいっていうものばかりだと、やっぱり嫌になってしまうので、何かそういったものを含めた講師の選び方というか、お願いの仕方というか、そういうような形をすれば、私は、そういったものでも皆さんが来てくれて、その中で、さっきのお話じゃないけれども、1つだけでも得ていってくれれば、いいのかなというような気はしますね。

○委員 こういう会って、スタイルにもう保護者がなれてないような気がしていて、ちなみに、教育委員会もいろいろ講演会やりますけど、集客はどうか。私、いつも一部の人しか講演会スタイルには、もう合わない気が。聞いて1時間も待てない保護者が多いような気がします。どうでしょうか。

○事務局 家庭教育支援セミナーを今回3種類やらせてもらって、二、三十人ごとですね、1回で。ただ、二、三十人ですけども、3種類のセミナー全て出ているというような方や、繰り返し出てくれる方もいるので、結構限られてはいますね。こういうのもやるけど、ほかのこともやらないと、多分来てくれる方は限られますからね。

○委員 この間、新家連という家庭教育のセミナーしている団体に属しているのですが、ウイズ新宿で「脳科学者の母が、認知症になる」というタイトルの本を出した方の講演会があり、70名定員のところにたくさん人が来ている。高齢の方だけかと思いきや、若い方から高齢の方まで幅広く。

○委員 一番気にしていることですね。

○委員 興味のあることですね、そういうの。小学校の保護者で皆さんが共通で興味があることっていうのも、ちょっと難しいかもしれませんが、人は集まると思います。

○議長 家庭教育支援セミナーって、どういうテーマで実施したのですか。

○事務局 「思春期」、「性教育」、「情報モラル教育」です。

○委員 情報モラルっていうのは、具体的に。

○事務局 スマホとかLINEとかが主なテーマでした。スマホ中毒とか。

○議長 子育てそのものの話ではなくて、子どもの状況について知るとかいうことなのでしょうね。家庭教育の本質って、やっぱり関係性、親子、親の大きさと子どもの関係性の問題で、すごく個別的ですよ。家庭環境とか親の性格とか経験によって、大分変わってきたりする。子どもの性格で変わってきたりするから。だから、それについて画一的な知識というのは、ヒットする場合とヒットしない場合があつて。というのはあるんですけど、ここの子どもってこういうものですよとかという話だと、そういう講座形式というのでしょうか、それがまたヒットするというか、ニーズに合う場合なんかがあるのだろうなということですよ。今までのご意見というのが、もっと気軽にというか、イベント的な要素を入れて、その中で家庭教育について考えてもらいたいという趣旨のほうがいいのではないかというご意見いただいて。

○委員 こっちでどんなすばらしいものやっても、本当に聞いてほしい人は聞いてくれず、十分御存じですよという方ばかり来ているような気がします。

○委員 それは何十年も前から言っていました。一番最近のところだと、協働学校で食の検定と

いう講座をしました。PTAが3人です。それで、あと私と学校の先生。話はおもしろいし、いい話が聞けるのですが、就業時間内とか、それから子どものお迎え時間だとか、色々な理由で来られない方もいますよね。来ないことには話にはならないです、正直な話として。

それを少し取り入れて、自分の子育てでも生活でも、食生活でも、何でも変えていけばいいのですが、講座ってなると、受けるイメージとか、いろいろあるんだと思います。じゃ、どうすればいいかっていって、私もちょっとわかりませんが。じゃあ、内々のこういう親しい人との世間話の中で何か話すのかなとか、なかなか難しいですよ。昔だと、母親がこういう考えがあって、父親はこういう考えで、「いやあ、でも社会はそうでもないよ」とかっていう、いろんな話が夫婦でできたのかもしれないけど。

○委員 本当に大賛成です、協働学校の中で教育という意味で、ぜひあのワークブックを使ってほしいと思います。家庭教育のシート、あれはセミナー方式じゃなくて、みんなで考えていくというような、価値観を広げてもらおうということをつくっています。学校の中でも全員に配っている状況ですので、先生方からも勧めていただいたり、実際に1つか2つのワークをどこかで体験してもらって、そして協働学校主催、連携で主催というようにワークシートを使用した講座などを開いていただいて活用していただけるとうれしいです。

もう一つ、問題意識が低い方はなかなかキャッチしにくいとは思いますが。私自身もいろんな講座をさせていただく中で、来る人は決まっています。ただ、1点、最近させていただいておもしろいなと思ったのが、スポーツ系の講座ですが、学校で開催しても来ない、地域で開催しても来ない、ただ、保護者は子どものスポーツの練習に付き添いで来ているので、その送迎の人たちをお誘いして練習の送迎にきている間に受けてくださいというように、スクールがやってくれたのです。そうすると、初めて受けますという方々がいっぱい受けてくれました。実際に講座を受けていただくと、すごく好評だったので場をどこで上手にセッティングして、参加をお誘いするというような工夫は必要ではないかと思えます。

最後になりますが、やはり予防的なところで、地域にもっと関心を持ってほしいとは思っています。ただ、常々感じていますが、学校を卒業したら、一時、地域とかかわる機会がないですよ。例えば卒業した保護者も対象としてボランティアに来ていただくのも大切だと思いますし、あと、卒業生ですね。例えば、中学を卒業して、高校・大学に行ったときに結構、時間余っている子たちもいます。例えば、部活が強豪校過ぎて部活には入れずに、何かやりたいなと。今後、大学入試が変わっていきますので、ボランティアというのは絶対必要になってきますよね。そうする中で、継続して卒業しても学校に、別に学校だけじゃなくてもいいのですが、地域とかかわっていくという経験を踏んでいくことで、予防的に大人となった後の、地域というのは身近であるというようなことをどこかで用意していただけると、うれしいなと思えます。

○副議長 PTAと同じように、町会・自治会も会員になる方が少ない。昔はほとんど全世帯、会員でしたが、今、新宿区の場合には四十六、七%だそうです。だから、やはり地域のつながりがすごい希薄化しているので、そういう中で、子どもがどこにいるかというのわからないというような、そんな状態です。それから、マンションが増加したので、尚更、交流しにくくなっているという、そういったものがあるのだと思います。

○議長 いろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。

非常に中身の濃い議論ができたと思いますし、問題点もクリアになったし、キーワードもあったので、私としては、そのことを選んでよかったなというように思っています。

○委員 1点だけちょっと。

○議長 どうぞ。

○委員 保護者の意見ってどうやってとりますか。保護者の意見が今、全く吸い上げられていない。PTAの役員の意見は聞けますが、その他以外も吸い上げる仕組みがちょっと必要かなと思います。こういうのをやってほしいという意見が今、全くなく、それこそ育成会にしても、いわゆるもう60代、70代の方が、これがいいだろうと言っても、やっぱりそこに格差がすぐくあるような気がして、何かそれをとる仕組みがないかと。

○委員 ある小学校では、PTAのアンケートを取っていました。

○議長 時間なので、議論は尽きないんですけど、またいろんな形で皆さんのご意見を反映させていきたいと思っています。この辺で議論は終わりにさせていただきます。

それでは、事務局の方から事務連絡をお願いします。

4 事務局からの事務連絡

5 閉会の挨拶

○副議長 大分というよりも、寒かった冬だったので、春が早く来たのかなというような、このところのそんな感じがいたします。桜の開花も二十六、七日ごろというようなお話でしたが、公園の中を走ってきましたら、大分膨らんでいましたので、もう少し早まるのかなと思ったりもしますが、まだ寒の戻りもあるのかなとも、そんな時期でございます。

学校関係は、年度末、学年末ということで、先生方もきょうはいろいろとお忙しくて、ご欠席だったと思いますけれども、新宿区の子どもたちのために、こうして皆さんでいろいろなご意見を出していただいて、きょうは3つの視点から考える、2つ目、地域協働学校とPTAという形でお話をさせていただきました。その中で、また3つのテーマについてお話をいただきまして、たくさんのご意見をいただきました。また小委員会でまとめさせていただくような形になるかと思えます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。お疲れさまでした。